

(縁・円・援)

兵庫えんだよい



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

見つけてみませんか？「通い場」の再開と「心が通う場面」の発見

コロナ感染の状況が落ち着き、少し地域の活動が戻りかけたと安心していただいていたところ、新たな変異株がでてきました。まだまだ油断ならない状況のなか、活動の一步が踏み出せないところがたくさんあると聞きます。今日は、そんな不安な中で、「通い場」の再開だけでなく、コロナ禍で芽生えた小さなつながり、「心が通う場面」の発見を取り上げてみたいと思います。

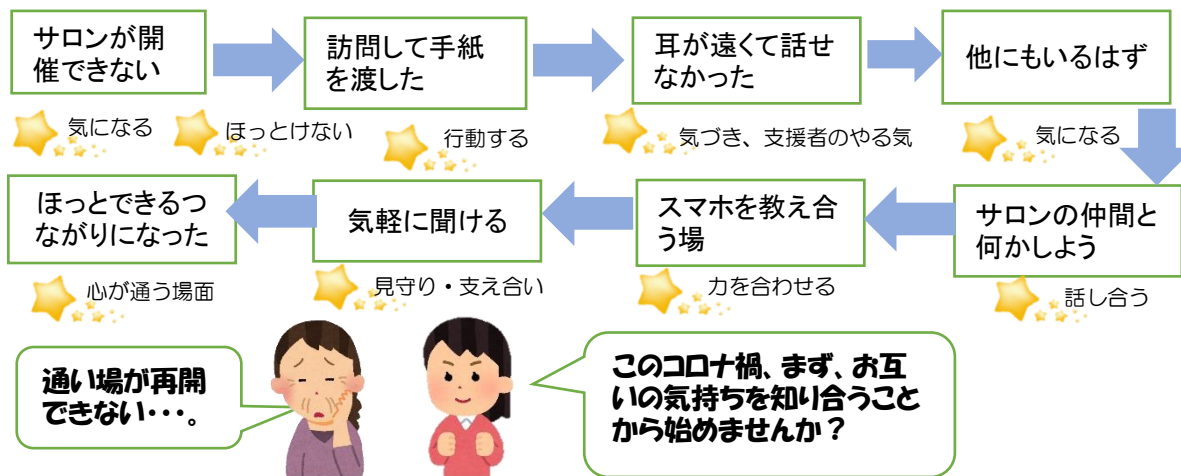
「通い場」の再開が望まれるいま、地域の活動者たちの悩みに耳を傾けよう。



でも、本当に何もできていないのでしょうか？こんなことがありました。

通い場主催者のAさんは、通い場が開催できないときに、利用者宅を訪問して手紙を渡しました。すると一人の利用者が反対にAさんの家まできてお礼を言われました。

「通い場では耳が遠くて十分話せなかった。でも、この前来ていただいて久しぶりに話すことができうれしかった。」これを聞いたAさんは、“はっと”気が付きました。**「こんな人が他にもいるのでは？通い場のほかにも心を通わすことはあるのでは」と**、自分ができる範囲でスマホを教えていくことを始められました。(明石市)



生活支援 CO

「心が通う場面」もさがしてみませんか。

【発行元】(令和3年12月10日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp(担当:山下・永坂)

県内各地のさまざまな「心の通う場面」を探してきました。

一年ぶりのサロンですがとても元気なのは？

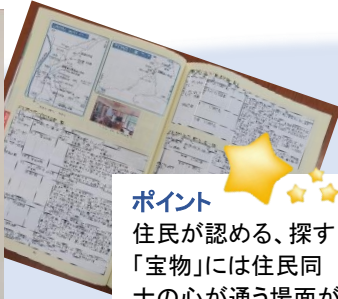
(市川町)

一年ぶりのサロン、みんなおめかしして勢ぞろい、毎月のサロンがコロナで中止になりました。でもこの地域では感染予防をしながら毎週のいき百体操、ほか住民どうして近くの喫茶店をお借りしてプチあつまり、農作業中の会話、気になる人の訪問などコロナの中でも「心の通う場面」づくりをしてきました。だから、久しぶりの再開でも元気で笑顔が満開。このサロンには100歳を超える方が2名おられます。お元気の秘訣が垣間見られた半日でした。



ポイント

- ・毎週いき百体操
- ・日ごろから声をかけあう関係。



ポイント

住民が認める、探す「宝物」には住民同士の心が通う場面がいっぱいあります。

コロナ禍だからこそ情報発信「地域の宝物」冊子

(丹波篠山市)

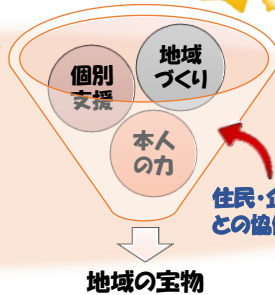
コロナ禍の今年の1月、「地域の宝物」は冊子になりました。なかには地域の宝物がびっしり詰まっています。なんと情報提供者は各自治会長や地域の方々等。出来上がった冊子をもって社協の生活支援COは地域を走り回ります。すると、冊子を見た地域の方から、「これも追加して」とバージョンアップするそうです。実は、生活支援COも自治会長、ここの住民です。

心が通う場 “注文をまちがえる喫茶店” 「だんない」

(丹波市)

認知症カフェ「だんない」は、実行委員会(地域住民、生活支援CO、地域包括)で何十回と協議を重ね、生まれました。協議体は地域に理解を広げる基盤整備や企業等をつなぐ後方支援を行っています。緊急事態宣言で休止してから一年。再開を望む声を受けてテイクアウトから始まりました。テイクアウトでもしっかりご本人たちの活躍で、「だんない」の中はさまざまな人の心が通い合います。エプロンの似合う地域包括の職員さんは「生活支援COはここに欠かせません」と話してくれました。本人の力、個別支援、地域づくり、住民や企業との協働等がうまくコラボして、とてもおいしいコーヒーが抽出されました。

ポイント



市町を超えて:生活支援Coの学び合いが行われています!

平常時はお連れサロン→災害時はお連れ避難

(三木市)

地域の自治会館が一次避難所になっており、災害時には安否確認の場所にもなっています。そこで、いつもの「お連れサロン」(互いに誘い合ってサロンに行くこと)の参加者に3枚のチラシを渡し、災害時は「お連れ避難」をしようと誘い合いながら自治会館に集まります。この日は、防災の話や防災グッズの提供もあり、普段はサロンに来られない方々が誘われて参加されていました。

プラス



生活支援COの学びの場

淡路市→三木市

この仕組みをえんがわナビで知った淡路市社協の生活支援Coと行政(地域包括C)の方が学びに来られ活動者の話を食い入るように話を聞いていました。



もしもの時はいつ起きるかわからない。サロンに誘うのが当たり前ならば、災害時に誘うのも当たり前になりたい。

自分たちだけでは限界がある。他の市町の活動がどのように行われているか、見て、聞いて、自分のまちへと思いをはせる。

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染拡大が、いつとき、おさまっているように見えます。市町へ訪問をすると、地域には、ほっとした活動者や住民の笑顔がみられるようになりました。そして、以前のような通いの場の再開には至らなくとも、心が通う場面の再開があっちこちに見られました。小さなきらめきがつながって地域を明るく照らしていきますように。そして、コロナ感染がこのままおさまってほしい…。誰もが願うことです。